

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく3

国立市立国立第七小学校

平成27年11月10日 NO.64 (264)



花ちゃん 「^{くにたちななしょう}国立七小^{たねと}のみんなでコスモスの種取りをしました。」

オー君 「^{たねと}とってもたくさんの種が取れたんです。」

モンタ博士 「それはよかったね。^{はる}春になったらみんなでまたコスモスの種^{たね}をまこうね。」

オー君 「^{まえ}ずうっと前にまいた、ナノハナやレンゲソウは、どうなっているのかな。」

花ちゃん 「この^{まえみ}前見たら、たくさんの^{ちい}小さな^め芽を出していたよ。」

オー君 「^{はる}春になったら、きれいな^{はな}お花を^さ咲かせてくれるんですね。」

モンタ博士 「モンタ博士はね、この^{くにたちななしょう}国立七小^{はな}を^{がっこう}花いっぱい^{がっこう}の学校にしたいんだよ。そこで^{やほ}谷保^{のうか}の農家^{ひと}の人に、^{たね}レンゲソウ^{ねが}の種を^{ねが}ほしいと^{ねが}お願いしたらね……。なんと^{たね}1キログラムも種をもらってしまったんだ。」

花ちゃん 「1キログラム？って、かなりたくさんあるんじゃないですか。」

モンタ博士 「^{おお}そうなんだ。めちゃくちゃ多いんだ。そこで、^{ねんせい}4年生の子^こといっしょに、^{きゅうしょく}給食^たを食べながら^{うわざら}上皿てんびん^{つか}を使って、^{なんこ}何個あるか^{しら}調べたのさ。」

オー君 「それで、それで……。」

モンタ博士 「まず、1グラムでは、^{たね}レンゲソウ^{なんこ}の種が^{しら}何個あるかを調べたのさ。」

オー君 「それで、それで……。」

モンタ博士 「1グラムで^こ319個もあったのさ。^{がいすう}概数で^こ320個だね。」

花ちゃん 「それで、それで……。」

モンタ博士 「1キログラムはつまり1000グラムだろう。だから、320を1000

ばい けいさん
倍して計算したんだ。」

オー君 「つまり、 $320 \times 1000 = 320000$ 個！うわあー！うごい数だ。」

モンタ博士 「多少の誤差はあるとしても、約300000個もあったわけだね。」

花ちゃん 「そんなにたくさんの種をどうするのですか。モンタ博士！」

モンタ博士 「学校のあちこちにもまいたけど、まだまだたくさん残っているんだ。それで、
くにたちななしょう 国立七小のよい子のみんなにあげようと思うんだ。」

オー君 「ほしい子はだれでももらえるのですか。」

モンタ博士 「もちろんだよ。校長室に取りにおいで。まってるよ。それから、ナノハナ
(アブラナ)の種もたくさんあるから、それもほしい人にはあげるよ。」

花ちゃん 「それで、いつその花の種をまけばいいのですか。」

モンタ博士 「いますぐにまくといいよ。春4月ころにはレンゲソウやナノハナでいっぱい
にしよう。お庭にまいてもいいし、鉢にまいてもいいよ。」

オー君 「国立七小もおうちも花でいっぱいにしよう。」

モンタ博士 「ここでね、モンタ博士は『かえ歌』を作ったのさ。」

花ちゃん 「『かえ歌』？って・・・どんな？」

モンタ博士 「学芸会で2年生が、会場いっぱい響かせていたあのステキな歌さ。」

オー君 「『かいぞくたちとたからじま』の歌ですか。」

モンタ博士 「そのとおりさ・・・」



♪ありがとう ありがとう ありがとう 花のたねをありがとう♪



の歌をかえ歌にして

♪あげましょう あげましょう あげましょう 花のたねをあげましょう♪

とかえたり、さらに



♪うえましょう うえましょう うえましょう 花のたねをうえましょう♪

とか、どうかな？」



レンゲソウ



ナノハナ(アブラナ)